

松浦市工業用水道事業の紹介

事業の趣旨

市の基幹産業であった石炭産業がエネルギー革命のため昭和44年には姿を消し関連産業の不振と相まって急激な人口流失により過疎化現象を呈するに至った。このような中で昭和52年から西九州における工業発展の拠点としての火力発電所の誘致に長崎県と一体となり全力を傾注した。その結果、昭和56年に開催された電源開発調整審議会において火力発電所の建設が正式承認され、昭和59年に大規模石炭専焼火力発電所の誘致が正式に決定され、工業用水の確保が緊要となり工業用水道の建設に着手した。

事業の経緯

当事業は、火力発電所2社の期分として、給水能力10,200m³/日の計画を立て昭和60年度に着手し昭和63年度に一部給水を開始した。その後平成9年度に火力発電所2号機の運転開始の予定にあわせ施設の再整備が必要となり、取水ポンプ1台の増設に対応した。また、当初計画給水量17,000m³/日の安定供給確保のため治水を含めた多目的ダムの早期着工を長崎県に要請し、平成4年度に笛吹ダム新規建設採択がされ県・市共同事業として、平成5年度にダム建設に着手し平成20年度から供用開始となり安定供給が確保された。

ユーザーの概要

(平成20年3月末現在)

業種	給水件数	契約給水量 (m ³ /日)
電力	2	12,300

工業用水道施設の概要

松浦市工業用水道事業は、志佐川の表流水を導水路により取水し沈砂池を経由して送水ポンプ所から600の送水管にて約2km離れた配水槽へ送水している。

この配水槽から自然流下により配水管400にて、約300m先のユーザーに給水している。また、配水槽の水位に合わせ加圧ポンプによる給水も行っている。

また、治水・利水の多目的ダムとして県との共同事業により建設された笛吹ダムが平成20年度から供用開始となり渇水時の工業用水の安定供給が確保された。

事業の特徴

志佐川流域は山林、田園地帯と自然に恵まれ比較的安定した水質を保っており、河川水の原水を供給している。

松浦市のホームページアドレス

<http://www.city-matsuura.jp/index.html>

松浦市工業用水道事業 事業概要図

